

山口県の反復性急性中耳炎に関するアンケート調査

奥田 剛 下郡 博明 原 浩貴 山下 裕司

山口大学医学部耳鼻咽喉科

The Questionnaire Survey on Recurrent Acute Otitis Media in Yamaguchi Prefecture

Takeshi OKUDA, Hiroaki SHIMOGORI, Hirotaka HARA, Hiroshi YAMASHITA

Department of Otolaryngology, Yamaguchi University, School of medicine

Recently, an increase in penicillin resistance *Streptococcus pneumoniae* (PRSP) has been reported in Japan. Especially, recurrent acute otitis media is a daunting problem. Then we performed the questionnaire investigation into recurrent acute otitis media for otolaryngology medical care institutions in Yamaguchi Prefecture. PRSP was detected mainly in recurrent acute otitis media. For proper treatment, it is important to gain an understanding of correct clinical separation bacteria for acute otitis media and correct sensitivity of bacteria to the antibiotic drugs.

はじめに

急性中耳炎は、我々耳鼻咽喉科にとって日常診療を行う上で、最も頻繁に見かける疾患の一つである。しかし、抗生物質の乱用により薬剤耐性菌が増え、薬物療法に抵抗性の中耳炎を見かけることも少なくない。特に小児の反復性急性中耳炎が問題になっており、起炎菌に、ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）やβ-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌（BLNAR）などが検出されるようになっている。

今回、我々は、このような反復性急性中耳炎の頻度やその起炎菌、それに対する治療の実態を把握するために県内の病院・診療所に対し、アンケート調査を行った。その結果を報告する。

対象と方法

アンケート対象は、山口県内で耳鼻咽喉科を標榜する、病院 25 施設、診療所 62 施設、計 87

施設とし、これらの施設に郵送にてアンケート調査を依頼した。対象患者は 2002 年 1 月の外来受診患者とした。反復性急性中耳炎の定義に関して確立したものはないが、今回の検討では、過去 6 ヶ月に 4 回以上急性中耳炎を繰り返した症例とした¹⁾。

結 果

病院 21 施設（84%）、診療所 41 施設（68%）、全体では 62 施設より回答を得た。全体の回収率は 71.3%であった。アンケートによる 2002 年 1 月 1 ヶ月間の山口県内の急性中耳炎症例数は、病院 635 症例、診療所 2402 症例、計 3037 症例であった。

1) 各施設での反復性急性中耳炎症例数 (Fig. 1)

各施設での、反復性急性中耳炎症例数別の割合を示す。1 施設 1 ヶ月あたりの中耳炎症例数別に、反復性急性中耳炎経験数を示した。中耳

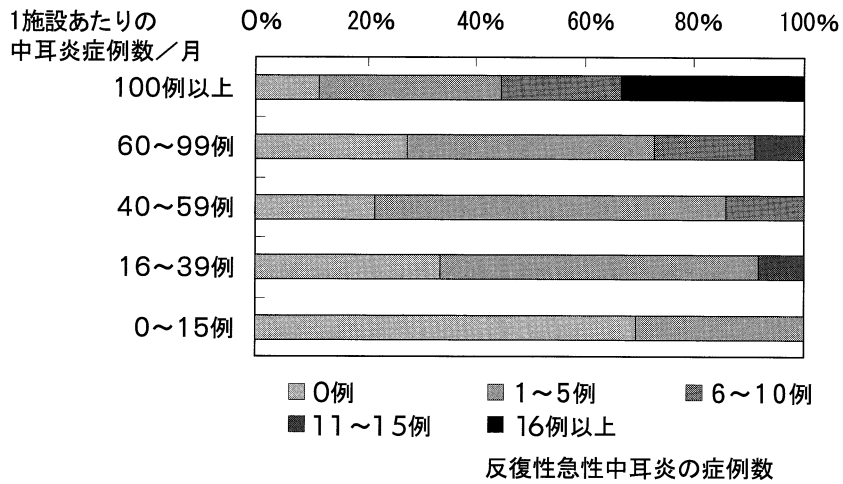


Fig. 1 Correlation of recurrent acute otitis media with numbers of patient with otitis media

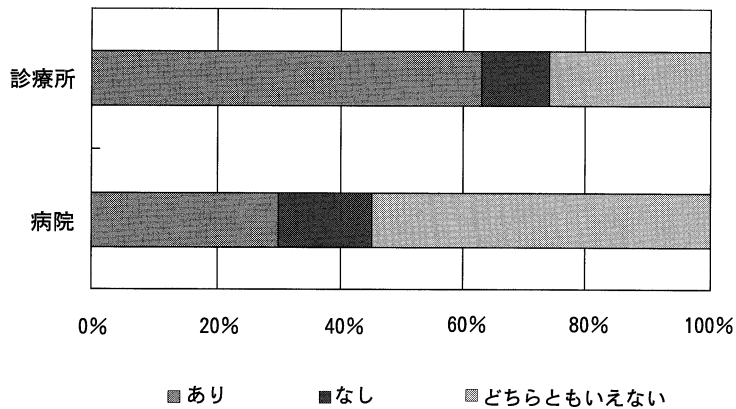


Fig. 2 Variation of recurrent acute otitis media according to seasons

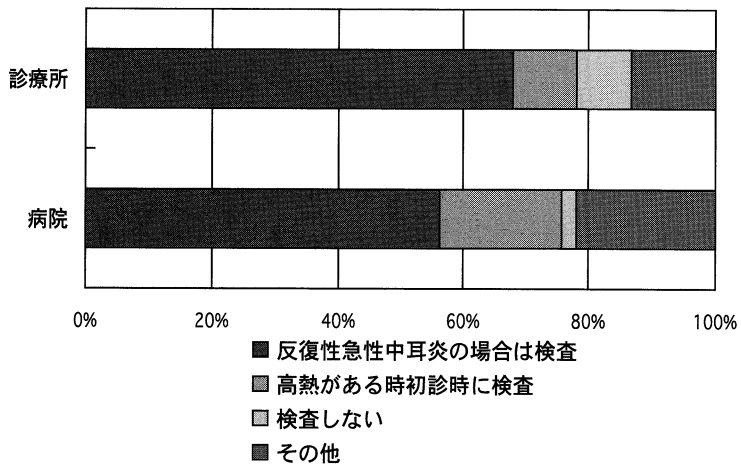


Fig. 3 Frequency of germ culture test for acute otitis media
(Mark all that apply)

炎症例数の少ない施設では、反復性中耳炎は少なく、中耳炎経験症例数の増加に伴い、反復性中耳炎症例数も増加していた。100症例以上経験している施設では、約35%で16症例以上の反復性急性中耳炎を認める結果であった。

2) 反復性急性中耳炎の季節性 (Fig. 2)

反復性急性中耳炎に季節性はあるか、という設問に対して、病院では「ある」と答えた施設は25%に留まったが、一線で診療に当たっている診療所施設では60%以上の施設で、「季節性がある」という認識があり、病院と開業医の認識の格差があることが分かった。

3) 細菌培養検査の頻度 (Fig. 3)

中耳炎症例に対し、細菌培養検査を施行しているかどうかに関して、細菌培養検査の施行頻度を示す。診療所、病院共に7割以上の症例に、特に反復性急性中耳炎症例には細菌培養検査が施行されていた。

4) 反復性急性中耳炎の起炎菌 (Fig. 4)

反復性急性中耳炎症例の起炎菌の結果を示す。アンケートでは、各施設に上位3菌種を選択して頂いた。1位の項目にあげられた菌種のみを示した。病院、診療所ともに、ペニシリン耐性の肺炎球菌 (PISP, PRSP) が、反復性急性中耳炎の起炎菌として最も多いという結果であった。以下、インフルエンザ菌、ペニシリン感受性肺炎球菌、黄色ブドウ球菌、MRSA となっていた。

5) 反復性急性中耳炎に対する使用抗菌薬 (Fig. 5)

反復性急性中耳炎に対する使用抗菌薬の種類を示す。セフェム系、ペニシリン系の経口薬の使用が多く、ついで、点耳用抗菌薬が多い結果であった。また、経口薬ではセフェム系抗生物質の使用頻度が高い結果であった。

6) 反復性急性中耳炎の抗菌薬処方状態 (Fig. 6)

反復性急性中耳炎の抗菌薬処方状態の結果を示す。病院においては、2剤併用処方が多く、

開業医では、当初単剤投与を行い、無効例に対し併用処方を行う施設が多かった。また、2剤併用のパターンとしては、経口抗菌薬と点耳薬の併用が最も多かった。

考 察

細菌培養検査に関して、肺炎球菌の検出率が低く、ブドウ球菌しか検出できていない施設が存在していた。これはおそらく外耳道皮膚などからの細菌のコンタミが原因と考えられた。また、検体採取部位に関して、起炎菌の検出が耳漏からでは陰性の事も多く、また上咽頭からの検出菌が、耳漏・鼓膜切開液からの分離菌とよく一致することから³⁾、正確な起炎菌の判断には、初診時における上咽頭からの検体採取も併せて必要と考えた。また、細菌培養検査の精度に関して、培養方法により肺炎球菌の検出が不良な事もあり^{2,3)}、可能であれば同一検体の複数施設での検査や、培養施設での培養方法・薬剤感受性試験の方法などを把握した上での、正確な培養結果、薬剤感受性結果の入手が必要と考えた。

一部の施設には結果のばらつきを認めたものの、今回我々が集計できた多くの施設における調査結果には、一定の傾向が認められ、このような調査は反復性急性中耳炎を把握する上で、意義のあるものと考えた。

ま と め

山口県内の反復性急性中耳炎に関するアンケート調査を行い、その結果を報告した。耐性菌の蔓延をふまえ、このような全県的な調査により反復性急性中耳炎の実態を把握することは意義があると考えた。

アンケートで1位の回答であった菌種

アンケートで1位の回答であった菌種

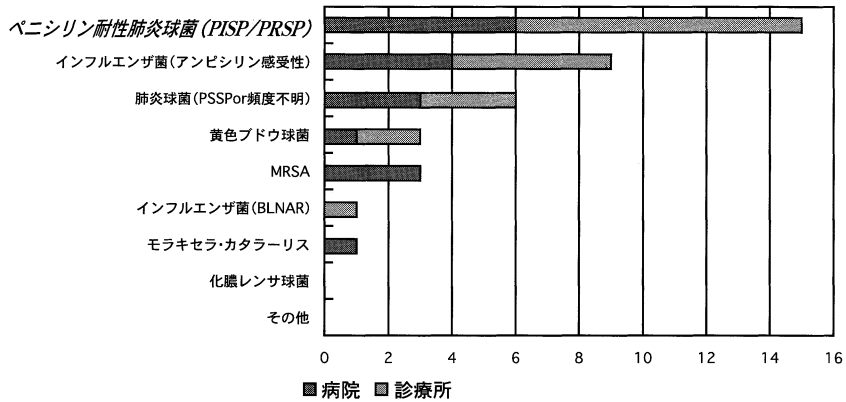


Fig. 4 Frequency of separated bacteria in recurrent acute otitis media

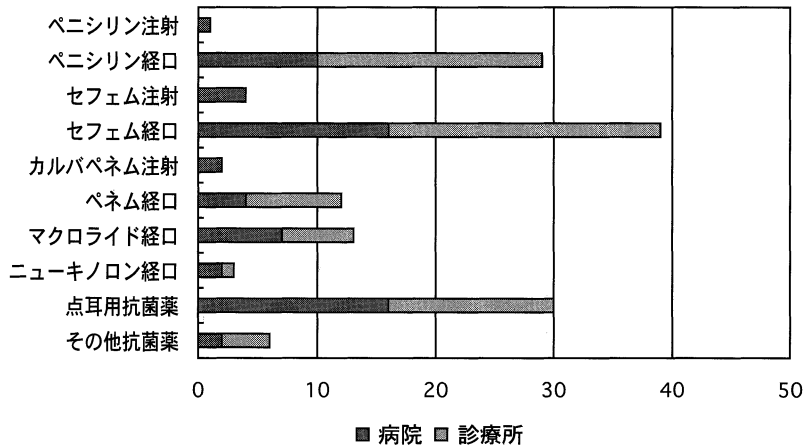


Fig. 5 Antibiotics selected in the treatment of recurrent acute otitis media

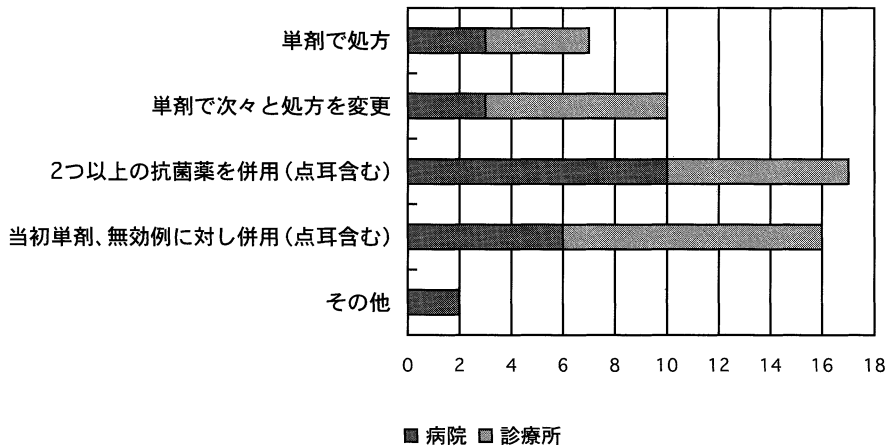


Fig. 6 Prescription of antibiotics for the treatment of recurrent acute otitis media

参 考 文 献

- 1) 山中 昇：反復性中耳炎の治療, JOHNS, 13: 1152-1138, 1997
- 2) 小栗豊子：日常検査における検出法の問題点, 臨床と微生物, 22: 145-151, 1995
- 3) 山中 昇：変貌する急性中耳炎, 金原書店, 2000

質 疑 応 答

質問 矢野寿一（東北労災病院）

都市部とそれ以外の地域で起炎菌の感受性に差はなかったか。

応答 奥田 剛（山口大）

今回は地方と都市部で分けて集計しておらず検討できていない。今後検討項目に加えたい。

質問 山中 昇（和歌山医大）

- ① 反復性中耳炎の定義
- ② 年齢について
- ③ 使用抗菌薬の種類について

応答 奥田 剛（山口大）

- ① 定義は「6ヵ月間に4回以上急性中耳炎をくり返した症例」とした。
- ② 年齢については複数回答項目であったが、77の回答のうち51は2歳以下であった。
- ③ 今回のアンケートでは大分類（経口注射の別あり）しか項目がなく具体的な使用抗生剤については不明であった。今後は、詳細につき検討できるアンケート項目を検討し、アンケートの作製、実施を行いたい。

連絡先：奥田 剛

〒755-8505

山口県宇部市南小串 1-1-1

山口大学医学部耳鼻咽喉科

TEL & FAX 0836-22-2280